

グループホーム 樺の里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		職員の成長、利用者の変化に応じ、理念の見直しをしたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		その人らしさを大切にしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		同一敷地内の特養を中心に地域との係わり合いはあるがグループホーム独自ではないので、地域の方へ配布用の「樺の里便り」の製作を考えている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		気軽に立ち寄りような関係が出来てないので今考え中である。(家が少ない、人通りが少ない。)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		社会福祉法人の代表者が自治会、老人会の付き合いをしている。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みはない。		公民館活動のサロンでグループホームの紹介をしてみたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価し改善すべき点はなるべく早く改善に取り組んでいる。		自己評価を全員で行い、改善点が分かりやすく、気づきやすくなった。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が今まで報告会になっていたのもう一度見直したい。		運営推進会議で活発な意見が出るように進めたい。又運営推進会議の議事を職員全員に報告する。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が毎月来られる。市役所で介護相談員側と施設側との意見交換会が年一回ある。市の実地指導も最近あった。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会の勉強会で学び、職員全員に流している。個々で必要ある方は支援している。		今後も学習は続けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。言葉の使いは、職員間でいつもチェックし合っている。		利用者同志のいさかきに職員が仲介に入り、未然に防ぐよう努力している。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所時、十分説明し、利用者、家族が納得され、入所していただいている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱の設置、苦情申出窓口の案内を掲げる等している。介護相談員の訪問もある。		普段何気ない会話のなかにも不満、苦情が隠されているのではと気づいている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月便りを発行し、面会時には健康状態など、いろいろ報告している。		急ぎの用のときは、電話をいれている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱の設置、苦情申出窓口の案内を掲げる等している。年一回懇親会の時に家族だけで話していただき意見が出やすいようにしている。		家族が職員に気軽に話しできるような雰囲気作りに気を使っている。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	グループホームの会議に法人の代表者も出席している。全体職員会議があり、職員の意見を求めている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事、受診などに合わせ、職員数を調整している。		利用者が重度化し、朝食の時も介護を必要とされる方が増え、早出の出勤者を作った。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の退職は少なく、法人内の異動もない。		職員が長期休暇を取った時はパート職員を入れた。

グループホーム 櫛の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集に年齢制限等は記していない。又職員に対しては資格取得にむけて内部、外部研修での資格の向上に努めている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>新人研修、代表者会議、職員全体会議等、機会ある毎に話しをしている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践研修や管理者研修、グループホーム協議会の全体研修、ブロック勉強会等全職員が受ける機会を確保している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会のブロック勉強会は地域のグループホームの参加が多く積極的に参加し、他の事業所と交流を図っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員互助会があり忘年会、歓送迎会がある。職員へねぎらいの言葉をかけている。希望に応じて有休を取りやすくしている。</p>		

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務年数、資格、勤務状況を把握している。勤務状況を評価し、本人の希望を聞き定年後も働いて貰ったり、職員希望の研修会へ出席で来るように支援している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者、家族と面談を行い決めていく。本人の意向を大切にし、聴いている		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者、家族はいろんな不安を抱えており、入所日は利用者、家族が不安なく納得できる日まで待っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が一番何を希望されているか、いつも考えている。		同一敷地内の特養の利用と比べたり、ケアプランセンターのケアマネージャーに相談にのってもらっている。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の精神が安定している時期に入所して貰うようにしている。又入所前お茶を飲みに来ていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に笑いがもてるよう努力している。お茶の時間を一緒に過ごしいろんな話しをしていただき、教えていただくことも多い。		洗濯物だたみしながら、花札しながら、入浴しながら利用者と職員はいろんな話しをしている。

グループホーム 櫛の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てもらえやすいよう、家族に声かけし、職員、家族が共通認識を持ち、介護できるようにしている。		利用者の誕生日に家族を招待し、一緒にお祝いをしている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にとって大事な親御さんを預かっているのだと思い介護し、家族と利用者がうちとけて話せるよう面会時には気をつけている。		面会時、家族と自室で楽しく過ごせるように支援している。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の服の入れ替えの為に自宅に送迎したり、入所前より利用していた診療所の送迎をしている。		利用者の馴染みのスーパーへの買い物をすすめている。又自宅の近くのデイサービスの利用者の訪問を受けている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同志の相性を考え、行事、食事の席、入浴順番を配慮している。職員は利用者同志の相性を把握している		利用者間の関係が悪くならないように職員はいつも考えている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	職員は利用者の入院時、頻繁に面会に行くようにしている。退院後の相談にのっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取るよう、話をゆっくり聞いたり、観察している。本人の意思の確認が困難な方は家族から情報を得ている。		家族からも情報を得て把握に努めている。

グループホーム 樺の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のバックグラウンドアセスメントを利用したり、その後も家族から得ている。		入所が長くなってきており、利用者本人から直接情報を得ることも多くなっている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者の日々の変化を勤務日誌、個人記録で確認したり、申し送り時に話し合っている。		利用者の行動、心身状態は日々変化があるので職員全員で共有できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活の仕方を観察し、利用者の希望、家族の希望、思いを考慮し、職員全員で介護計画を作成している。		利用者の言葉としての希望が出てきにくいので、職員は利用者が何を希望されているのか汲み取るようにしている。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に介護計画を見直している。状態が変化した時も見直している。		毎日介護しており、状態の変化には気づいているが、介護計画書の作りかえが遅れていることがあるので注意したい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の書き方など工夫して、職員が日々の変化をわかりやすく情報の共有しやすいようにしている。		記録の書き方に工夫を重ねている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養の運動会、文化祭などに参加したり、受診時はリフト車を借りたりしている。特養看護師も支援してくれている。		利用者、家族が安心して生活が送れるようにいつも考えている。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	福祉関係からの映画、講演などに積極的に参加したり、行事のときにボランティアの方に来ていただいている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	マッサージを必要とされる方に週2回医療保険でマッサージ師に来てもらっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ必要とされる方がいない。地域包括支援センターとのかわりはない。		地域包括支援センターの役割について勉強したい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族と相談し、かかりつけ医、受診先を決めている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要な方、必要時は、専門医に受診している。毎月受診されている方もおられ症状報告はきちんとしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ敷地内の特養の看護師に日常的に相談にのってもらったり、支援してもらっている。		職員は看護師からいろんな知識を得、勉強していきたい。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時、面会を多くし利用者の精神の安定に努めたり、家族と交流をしたりし又病院より病状の情報収集に努めている。		利用者に職員のことを忘れない(退院後、安心して過ごせるように)頻回に面会に行っている。
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	現在、重度化が進んでおり、利用者の様態を関係者の中で話す事が多い。		重度化、終末期について早い段階で家族と話したい。
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化が進んでおり、職員は研修会に参加し情報収集し、又毎月のケア会議の中で話しあっている。		同じ敷地内に特養があり、必要時移動がスムーズにできるように検討している。
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	住み替えされた方はおられない。重度化した利用者の家族、ケア関係者と検討している。		特養関係者と意見交換したり、特養利用者との交流している。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	プライバシーを大切にす支援、記録の書き方に心掛けている。出来るだけ利用者の耳元で話するように心がけている。		記録の書き方の研修会に参加した。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と一緒に話せる機会を設けたり、聞き方も答えやすいように選択性にもある。		言葉が理解できない時は職員がジェスチャーして伝えている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調など観察し、認知のレベルにあわせその日その日できそうなことを進めているが決して強制せず、その方のペース、気持ちを尊重している。		伝えることができない方の支援。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できるだけ外部の美容室に行くようにしている。その人の趣味に合った洋服が着れるよう支援している。		希望される美容室がないときは職員が選んでお連れしている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、利用者が会話しながら、利用者のペースを保ち、食事している。		台拭き、お茶碗拭き、野菜の下ごしらえをしてもらっている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は利用者の希望を聞いていたが、今は職員が利用者の好みを把握し、提供できるようになった。		牛乳を飲みたくない時は別な飲物をだしている。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々職員は排泄記録を参考に支援している。		オムツを利用してるかたも交換の時間が毎日一緒ではない。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を考え、毎日入浴できる人、週3回の人などいる。毎日入浴できる方も毎日希望を聞いている。		順番はできるだけ本人の希望通り、一番風呂のいい方、一番風呂の嫌いな方など職員は把握している。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室に帰り、お昼寝される方、ソファでお昼寝される方がいる。朝早起きの方、朝寝坊される方、職員は把握している。		意思の伝達ができない方は職員が様子観察し、ベッドで休んでいただいたり、ソファに座ってもらっている。湯たんぽを希望される方に湯たんぽを用意している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が楽しく過ごせるようにパズル、計算ドリル、縫い物、洗濯ものたたみの手伝いなどしてもらっている。作業の途中や終わった時はやる気を持ってもらうように声かけしたり、お礼を言ったりしている。		天気のよい日はできるだけ散歩に出かけるようにしている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化し、お金を持てる方が少なくなってきたが、お金を使える方には美容室の利用料、買い物などの支払いをしてもらっている。		普段お金を使わない方でもお賽銭はあげられるので、そのときだけ持たれる方もいる。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は特に職員の方から促している。		春は菜の花、桜、チューリップなどを見にドライブに行くことが多い。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	美術館、喫茶店に個別にお誘いすることがある。ドライブには家族の参加を呼びかけることがある。		利用者の容態を考慮してゆっくり見学できるよう平日に実施していたが、より多くの家族が参加できるよう、日曜日の行事も計画当中である。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、職員がダイヤルしている。		贈り物が届いたときなど職員と一緒に家族に電話をかけ話をしてもらっている。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時お茶を出し、話をして頂きやすいよう支援したり、昼食時は一緒に食べてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での身体拘束会議が1回/月あり、参加し、グループホームに戻り、会議報告をしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は無断外出される利用者について外出していた。今は重度化が進み、無断で出かける方はいない。鍵はかけていない。		夜間のみ玄関、掃きだし口、浴室は施錠している。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	重度化がすすみ、利用者の所在を把握しやすくなった。利用者の行動パターンを職員は把握できている。		居室で一人で過ごされている方に対しても、時折様子を見に行き把握している。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物(針、ハサミなど)毎日、数や置き場所チェックを取り入れている方もいる。		必要のない物は家族と相談し、職員が保管したり、家族が必要だということにして持って帰ってもらっているときもある。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	餅を食べるときは、細かく切った野菜と一緒に食べてもらう。動きを感知するセンサーの取り付け、ベッドから降りようとされる方のベッド柵に鈴を取り付け、ベッド横にクッションマットを敷くことをしている。		ヒヤリ・ハット、事故報告があがると、即何らかの対応をとっている

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所当初は勉強会などをよく実施した。マニュアルもある。		職員の異動が少ないため、定期的に確認することがなかったため、定期的に取り組みたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生マニュアルを利用し、年2回避難訓練を行っている。職員の連絡網は作成している。		夏祭り、獅子舞、盆踊り等、地域の方(近隣)に来ていただき、入所者の状態等も知ってもらっているが、具体的な地域の方との協力は、今後考えていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、ケアプラン作成時、家族に普通の生活が送れるよう、それに伴い、リスクがあることを説明し利用者本位に考えている。		リスクが高くなると不安を抱く家族がおられるので、説明を十分行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「普段と違う」ということを敏感に察知し、発見時職員、特養看護師、家族と情報を共有し受診など決めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は新しい薬が出たときは、必ず薬の説明書を読み確認している。		新しい薬を服用したときは、薬の効き方、副作用など職員間で細かい情報を共有している。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	動ける方はできるだけ、身体を動かすよう体操したり、野菜を多く摂るよう、心がけているが、一人ひとりの体調にあわせ、緩下剤を服用されているかたもいる。		散歩、腹部マッサージを行っている。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	重曹水で口腔ケアをしたり、歯ブラシを工夫したり、一人ひとり違うケアを取り入れている。		11月に歯科衛生士に口腔ケアの指導を受けた。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量・水分量を書き、水分が少なくならないよう気をつけている。		摂取量が少ないときは栄養補助食品を利用している。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	つきに1回、又は必要時感染症委員会があり、すぐに対応できるようにしている。		マニュアル有り。 「ノロウイルス発生時処置グッズ」を用意している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾は定期的に消毒し、新鮮な食材を利用するために週3回買い物に行く。		冷蔵庫、食品庫内を定期的にチェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節ごとの花をプランターに植えている。玄関には利用者の作品を飾る。靴の脱ぎ履きしやすいようベンチを置いている。		親しみのある出入りしやすい玄関を作るようにしている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・室温・テレビの音量はいつも気をつけている。4台のソファ、掘りごたつなど置いて利用者が好みの場所で過ごせるようにしている。季節の花を飾るようにしている。		テレビの前で利用者が昼寝されているときは、テレビの音量を下げている。

グループホーム 檜の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにソファ4台、食卓、掘りごたつがあり、それぞれ好みの場所がある。		平成19年12月にソファ1台を増やした。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知にあわせ、使い慣れた品物を持ってきてもらっている。		仏壇・マッサージ機を持ってこられている方がいる。家族が定期的に写真の貼りかえをされている方がいる。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は定期的に換気、エアコン調節を行っている。		オムツ交換時、換気扇を入れている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー、手摺付きである。ベッド柵の工夫、ADLに応じベッドの移動を行っている。		最近、ベッドに寝て見るテレビの位置について場所替えを2回行った方がいる。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知に応じ、自室への目印を書いている。		自室が分からない方に、自室に戻れないとき、声かけ、見守り対応している。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	以前は自由に散歩できるよう外周に気をつけていたが、今は一人で散歩できる方が無く、リビングから見える庭に花を植え楽しめるようにしている。		職員と散歩時、野菜の成長を見ていただいたり、芋堀りを見学して、楽しんでもらっている。

グループホーム 樺の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 檜の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念として掲げられている「住み慣れた所でその人らしく穏やかに暮らせるよう支援します」「明るく、家庭的な温かみのあるグループホーム」作りに取り組んでいます。